

## グローバルアドバイス①

- 1 目的 探究学習委員会の生徒が今後課題研究を進めていく上で、テーマの絞り込みや調査方法、視角等について、オーストラリア研究の専門家から適切なアドバイスをいただき、今後の探究学習の一助とする。
- 2 日時 令和元年 5 月 17 日(金) 15:30~17:30  
地歴科室
- 3 講師 筑波大学生命環境系地球環境科学専攻 堤純教授  
専門/オーストラリア大都市圏に関する研究 他  
近著 『変貌する現代オーストラリアの都市社会』  
筑波大学出版会 (2018 年 3 月)
- 4 対象 探究学習委員会生徒 22 名
- 5 内容 各グループ(計 7 グループ)から研究の動機に関するプレゼン(各 3 分)  
グループごとに堤教授からのアドバイスと質疑応答(各 7 分)  
全てのグループ終了後、現代オーストラリア研究に対するレクチャー  
「オーストラリアの都市社会～飛行機通勤で発展するパース～」(50 分)

### 6 生徒の感想

・まだ私の班はユニバーサルデザインや高齢化について話を進めきれていないところがあるので、堤先生から指摘された通り、方向性を定めて、施設よりも身近な道具などから考えていきたいと思った。

・自分たちの方向性がまとまっておらず、テーマ自体のアドバイスをもらった。前よりも何をすべきか見えてきた。しかし、事前にそこをしっかりと考えていれば、もっと内容に関することや深いことを聞けたと思う。まずは、アドバイスをもとに早急にテーマを固めたい。

・スーパーの容器や袋の素材を変えると環境には良いが、値段が高くなってしまう。環境を良くするにはお金がかかってしまうということを理解してもらって意識改革をすることが大切だと思った。

・素材の開発をする上でのデメリットは、その素材の開発をする分高くなるコストである。

・日本の食糧自給率が下がったきっかけの一つが円高と聞いて、農業の状況の背景には社会情勢も深く関わっているとわかり、まだまだ自分も知らないことが多く、他にも背景がありそうだと思った。

・先生のアドバイスを聞いて、自分の調べ学習の甘さを痛感しました。やはりインバウンドを増やすには言語が大きな問題になるので、具体例を参考にしながらアイデアをもっと深め、実現できる可能性についても検討したいです。

・今まであまり考えてこなかった視点からのアドバイスを堤先生から頂けて良かったです。今後の研究をしていく上で様々な視点から総合的に研究をしていきたいです。また、一つの現象に対していくつかのアプローチを考えていくという方法を普段からやっているわけではなかったので、どのような考えを持って行くことが大切であると思いました。

・自分たちが考えているよりもずっと複雑な問題であったと分かった。為替や技術、経済とも密接に結びついているため、農業の問題と一口に言っても一枚岩ではなく、幅広くとらえていく必要があると思う。また、問題だと思っていた事象にもそうでない一面があって興味深かった。

・堤先生の意見、アドバイスによって、自分たちの研究テーマの穴がたくさん見つかった。

・私はこれまで新しい観光のプランを作るには、一から考えなければならないという固定観念に縛られていたが、堤先生の「成功例を探せ」というアドバイスを踏まえ、先例に学ぶことも大切であると感じた。

・講演でお話しされたパースの Fly-in Fly-out Jobs、「飛行機通勤」に衝撃を受けました。日本では働くというとコツコツと少しずつ働くというイメージがありますが、パースの Fly-in Fly-out Jobs では、短期間に大量にかせぎ、その後は起業するなどの働き方で、そのようなアクティブな働き方も視野に入れると良いのだなと思いました。

・オーストラリアの若者は、鉱山などで短期的に集中して働いておもしろいお金をかせぐという話を聞いて、すごく夢があるなと、と思いました。この生活のデメリットとして、寂しいから、という理由があったので、家族愛が強い人が多いんだなと思いました。

・堤先生のお話を聞くまでは、オーストラリアは日本と違って自由なイメージを勝手に持っていたけれど、お話を聞いて FIFO のような仕事もあり、私の考えているようなものではないと分かりました。固定観念に縛られずに、いろいろな視点から物事を見ていきたいと思います。





